



静脩

2004年 1 月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 40, No. 3

電子ジャーナルの利用について — 「社会健康医学系専攻」からのリクエスト—

医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 助教授 中山 健 夫

「電子ジャーナルの利用について」というテーマで編集委員会から寄稿依頼を頂きました。

一ユーザーとしては、ここ数年で飛躍的に図書館の情報環境が充実してきたことを素直に喜んでいます。私の所属する社会健康医学系専攻は、医学研究科内に平成12年度に設置された新しい大学院で、一橋大学大学院国際企業戦略研究科（いわゆるMBAコース）と共に国立大学初の「専門大学院」として発足しました。既に誕生から3年半が経ったとは言え、まだまだ若い専攻で、京都大学という大きな組織から見ると、まだ余り多くの方々に知られてはいない存在でしょう。この機会を利用して、まず本専攻を簡単にご紹介させて頂ければと思います。院生さんを対象に、図書館サービスへの要望についてアンケート調査を致しましたので、その結果を報告して図書館のさらなる発展に向けてエールを送れば、と考えています。

「専門大学院」についてですが、これは「高度専門職業人の養成に特化した実践的な教育を行う大学院修士課程」とされています。その目的に即した教育研究環境を確保するために、従来の大学院修士課程とは異なる次の特色を持っています。

・教員組織（従来の2倍、相当数の実務経験者

が必要）

- ・カリキュラムや授業方法（ケーススタディ、演習、フィールドワーク、インターンシップ等）
- ・修了要件（論文に代えて特定の課題についての研究の成果を審査）



実務経験者の要件は、本専攻では臨床経験のある医師も多いので、実務と研究とクリアに2分されるわけではない（両方している人が多い）ですが、生物統計学の領域では製薬会社に勤務されていた先生方がいらっしゃいます。「専門大学院」は修士課程が相当しますが、本専攻は当初から博士課程も併置して、他の専攻と同様に研究者養成も行っています。さらに2003年度からは「専門職大学院」の一つに位置づけられました。「専門職大学院」は法科大学院への社会的な関心の高まりと共に、その名前を大学関係の多くの方々が耳にされていることと思います。「専門職大学院」の趣旨はほとんど「専門大学院」と同じですが、2003年施行の改正学校教育法によって始まった新しい制度である点が違うと言えるでしょう。「専門職大学院」はアメリカのロースクール、ビジネススクール、メディカルスクールなどのプロフェッショナルス

クールをモデルとしています。

社会健康医学系専攻の英文名は "School of Public Health"であり、パブリック・ヘルス領域の専門職大学院となります。従来、大学におけるPublic Healthの研究は医学部の中の一教室（「公衆衛生学」の名称で）として行なわれていました。欧米では、大学院過程に相当してSchool of Medicine（医学部）とSchool of Public Health（公衆衛生学部）が並列して運営されていることから見ても、これまでの日本におけるパブリック・ヘルスの研究・教育体制の不十分さは明らかでした。社会における医学・医療をめぐるさまざまな今日的な課題に取り組んでいくために、より規模の大きい、充実した研究・教育システムの必要性が高まり、本専攻の設置への機運が高まったと言えるでしょう。開設当時から名称変更のあった分野もいくつかありますが、現在は協力講座も含めて次の6講座16分野で構成されています。

健康解析学…医療統計学、医療疫学、薬剤疫学、ゲノム疫学

健康管理学…医療経済学、医療倫理学、健康情報学、疫学研究情報管理学（協力分野）

健康要因学…環境衛生学、健康増進・行動学、予防医療学(保健管理センター・協力分野)

国際保健学…社会疫学、健康政策・国際保健学
社会生態学（協力講座）…環境生態学（東南アジア研究センター）、人間生態学（同左）

特別コース…知的財団経営学（産学連携オフィス）

入学される学生さんは、医師・歯科医師、薬剤師、看護師だけではなく、弁護士さんや地裁判事を勤められた方、大手新聞社の元論説委員、学校のベテラン教員といった方々から、大学を卒業してすぐに大学院に入学される方もいて、本当にそのバックグラウンドは多彩です。学内の他の専攻系は知らないのですが、きっと最もバラエティーに富んだ、良い意味で変わった集団と言えるでしょう。現在、修士課程が各学年22名、博士課程11名、卒業生も合わせれば100名を越える学生さんが籍を置いていることになります。縁あって本専攻に来られた方々が、所期の目的を達して、それぞれの立場で問題に取り組み、医療を含むパブリック・ヘルスの向上に貢献していかれることを心から祈り、一教官として応援している次第です。

さて本稿の執筆にあたり、専攻の皆さんに図書館の利用状況について簡単なアンケートをさせて頂きました。内容は電子ジャーナルに限りませんが、今後の図書館サービスの充実に向けて何かの参考になれば幸いです。

調査期間： 2003年12月1日～4日

方法：電子メールで連絡可能な本専攻修士・博士課程在学者（正確な分母は不明ですが推測で40-50名）

回答数：21名

図書館利用状況アンケート

回答数21（カッコ内パーセント）

	3 ほぼ毎日	2 2～4日くらい	1 ほとんど見なかった
(1) この1カ月間、図書館のホームページは平均して週にどれくらい見られましたか？	4 (19)	15 (71)	2 (10)
(2) オンラインのデータベースのうち、よく使うものは？			
1：PubMed (医学図書館経由)	6 (29)	12 (57)	3 (14)
2：PubMed (医学図書館を経由しない)	5 (24)	6 (28)	10 (48)
3：CochraneLibrary (医学図書館経由)	0	4 (19)	17 (81)
4：Web of Science (医学図書館経由)	1 (5)	6 (28)	14 (67)
5：Journal of Citation Reports (医学図書館経由)	0	7 (33)	14 (67)

6：他（具体的にご記入下さい）	●医中誌 ●Science direct ●interscience wiley ●医学中央雑誌・WebSPIRS ●PubMedで検索したページから、京大マークでオンラインジャーナルを取り寄せているが、時々選択したページと異なったページが出てきてしまう場合があり、改善を望んでいる。			
7：今後、利用したいデータベースがあれば記入してください。	●あまり大学構内におりませんので、学外からのアクセスを可能にさせていただきたいと思います。 ●UpToDateは必須です。ぜひ図書館経由で利用できるようにしてください。個人で買うのは高いです。 ●どうも社会健康の人たちは一部心理に片寄っているので、心理系のjournalのデータベースも医学図書館経由で利用できるようになると貸借時のトラブルが減るのでは無いでしょうか？ ●SciFinder ●EMBASE			
(3) オンラインジャーナルは週にどれくらい使うか？	3 ほぼ毎日	2 2～5日くらい	1 ほとんど使わない(1日以下)	
	8 (38)	13 (62)	0	
(4) 利用可能なオンラインジャーナルはすぐに分かりますか？	4 だいたい分かる	3 時々、わからない	2 分からない 時が多い	1 使うことがないので、答えられない
	11 (52)	8 (38)	2 (10)	0
(5) 利用可能なオンラインジャーナルの満足度はどれくらいですか？	4 満足している	3 だいたい満足しているが、不満な部分も多い	2 不満が多い	1 使うことがないので、答えられない
	0	17 (81)	3 (14)	1 (5)
(6) 現在提供されているものの他に、利用したいオンラインジャーナルがあればご記入下さい。 (実際に図書館で提供されているか否か確認は不要です)	●Annual Review of Public Health ●Tobacco Control ●Statistical Methods in Medical Research ●environmental toxicology and chemistry ●アレルギー・免疫 ●図書館のサービス自体（職員の対応）には問題がないが、利用できるオンラインジャーナル（特に生物系）が意外と少ない。以前大阪大学に所属していたが、その際はPubMedで表記のあるジャーナルはほぼすべてとることが出来た。予算の関係もあるだろうが、どうにかならないだろうか。 ●Journal of medical genetics ●Am J Hum Genet のアカウント数増希望（しばしば繋がらない） ●現在、図書館でも中止になってしまいましたが、是非、"SLEEP"があればいいと思います。			
(7) 図書館に提供して欲しいセミナー・ワークショップがあればご記入下さい。	●PubMed、医中誌などの利用説明に関する講習会を定期的開催して頂けるとありがたいです。 ●Medline、医中誌以外の検索についてのワークショップ ●PubMedの使い方など、文献の探し方についてのセミナー			
その他	●Lippincott Williams & Wilkinsのオンラインジャーナルは使いにくい。Medlineで検索して京大ボタンが出ているのにリンクでアクセスできないのはなんとかしてほしいです。あれとっても不便です。 ●職員の方に聞くといつも丁寧に教えていただけるので感謝しています。			

図書館の方々の情報サービスにはいつも感謝しておりますし、学生さんからの満足度も概ね良好のようです。実現の難しい期待もあるかもしれませんが、「専門職大学院」の厳しい目を持ったユーザーからの声としてご検討頂ければ幸いです。図書館と私たち自身のより良い関係作りを願いながら、本稿を終えたいと思います。

（なかやま たけお）

附属図書館から

中山先生にはお忙しい時間を割いていただき、貴重な原稿をお寄せいただきありがとうございました。その中にありました「図書館の利用状況のアンケート」は、これから図書館のサービスを充実させるうえで貴重な資料となるものです。大変ありがたく思っております。

ホームページを見ていただく回数も毎日の利用者が約20%、2日～4日の頻度で見ていただく方を合わせると90%となり、ホームページを作成しているものにとっては大きな励みとなります。

アンケートのご回答をいただいている中で、図書館からすぐにお答えできることがありますので、次に列挙させていただきます。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお京都大学構成員で、ご利用できる電子ジャーナル・データベースについては以下のURLをご参照ください。「京大附属図書館ホームページ電子図書館の中の学内向けサービス」

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaiej.html>

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaidb.html>

質問 (2) 6 (具体的に利用しているオンラインデータベース)

● PubMedで検索したページから、京大マークでオンラインジャーナルを取り寄せているが、時々選択したページと異なったページが出てしまう場合があります、改善を望んでいる。

<回答>

PubMedからフルテキストデータへのリンク情報は、出版社などのデータ提供者がPubMedに対して提供しているものです。該当文献と異なったページにリンクするのは、データ提供者からの情報が間違っているものと思われます。京大側では修正できない事項ですが、PubMed作成元に修正を依頼する必要がありますので、発見された際には該当文献を図書館(下記連絡先)までお知らせください。

質問 (2) 7: 今後利用したいデータベースがあれば記入してください

●あまり大学構内におりませんので、学外から

のアクセスを可能にさせていただきたく思います。

<回答>

電子ジャーナル・データベースともに契約サイトからの利用に限定されているのが通例です。ただし、エルゼビア社とワイリー社が提供する電子ジャーナルは、学外からのアクセスができる機能があります。他の出版社の電子ジャーナルについては、契約上の制約にて学外からは、利用できる電子ジャーナルが限られています。学外からの利用希望については、図書館(下記連絡先)にお問合せください。

●UpToDateは必須です。ぜひ図書館経由で利用できるようにしてください。個人で買うのは高いです。

<回答>

ネットワーク版のUpToDateは非常に高額(約600万円)であるため、現在は導入が困難です。医学図書館内でスタンドアロン版での提供ができないか、検討しています。

●どうも社会健康の人たちは一部心理に片寄っているの、心理系のjournalのデータベースも医学図書館経由で利用できるようになると貸借時のトラブルが減るのでは無いでしょうか？

<回答>

ご質問の趣旨が少し不明な点があるので、直接に図書館(下記連絡先)にお聞かせいただきたく存じます。

心理学系データベースとしては、アメリカ心理学会が刊行する心理学分野の文献情報誌「Psychological Abstracts」の電子版「PsycINFO」が2003年12月末まで全学に提供され、利用できていました。しかし残念ながらこれまで経費負担をしてきた部局が負担に耐えられなくなったため、全学での利用が2004年1月から出来なくなりました。非常に残念なことです。附属図書館商議会の「外国雑誌等に関する専門委員会」等で今後も全学での利用ができるように検討しています。

●「SciFinder」

<回答>

化学関係分野の文献データベース「SciFinder Scholar」は、人環・総人、理学部、

薬学部、工学部、農学部、宇治地区、再生研、原子炉等の共同出資により提供されています。同時接続数が全学内で5人までと少ないため、頻繁に人数オーバーを起こしてしまうのが難点ですが専用検索ソフトをダウンロードするとご利用いただけます。図書館（下記連絡先）にお問合せください。

質問（6） 現在提供されているものの他に、利用したいオンラインジャーナルがあればご記入ください。

<回答>

ご利用希望の電子ジャーナルについては2004年度以降の検討対象として参考にさせていただきます。

●図書館のサービス自体（職員の対応）には問題がないが、利用できるオンラインジャーナル（特に生物系）が意外と少ない。以前大阪大学に所属していたが、その際はPubMedで表記のあるジャーナルはほぼすべてとることが出来た。予算の関係もあるだろうが、どうにかならないだろうか。

<回答>

ご指摘のとおり、利用できる電子ジャーナル（現在約7000タイトル）は他大学に比べても少なく研究上も支障をきたすことがあるかと思えます。上述の附属図書館商議会「外国雑誌等に関する専門委員会」が担当して、全学的見地から検討の俎上に上がっていますが、予算的制約から、すべての電子ジャーナルを契約することは不可能です。また、電子ジャーナルの選定にあたっては、文献複写の申し込み状況等を参考にしながら、国内での入手が困難なものや利用頻度の高いものを優先的に導入するよう努力しています。

今後も電子ジャーナル・データベースの予算の確保は、重要な目標として認識しています。電子ジャーナルは確かに便利ですが、あまり利用頻度の高くないタイトルについては、他大学への文献複写申込みを利用する方が、費用対効果が高い場合もあります。文献複写については、附属図書館相互利用掛（753-2638）、またはご所属学部・学科図書室にお問合せください。

●Am J Hum Genet のアカウント数増希望（しばしば繋がらない）

<回答>

電子ジャーナルが利用できないときは、アカウント数以外に学内ネットワークやプロキシサーバ上の障害、提供元サーバ側の障害などいろいろな原因が考えられます。何度か試してみても繋がらなければ図書館（下記連絡先）にご連絡ください。

質問（7） 図書館に提供して欲しいセミナー・ワークショップがあればご記入ください。

●講習会・ワークショップの開催希望について。

<回答>

講習会、ワークショップなど開催のご希望をありがとうございます。現在も附属図書館参考調査掛を中心として開催しておりますが、今後ご希望のデータベースなどや電子ジャーナルについて附属図書館や医学図書館で開催していく予定ですのでぜひご参加ください。

その他

●Lippincott Williams & Wilkins のオンラインジャーナルは使いにくい。Medlineで検索して京大ボタンが出ているのにリンクでアクセスできないのはなんとかしてほしいです。あれとても不便です。

<回答>

Lippincott Williams & Wilkins (LWW@Ovid) は、安価で多くの電子ジャーナルを利用できることからパッケージ契約を行うことにより導入しているものです。ただし、京都大学専用入口を通過しなければ利用者認証ができないので、PubMedからはすぐ利用できない等の不便さがあります。一方で、利用できる電子ジャーナルは29誌から104誌に増加しています。PubMedのリンク先URLは提供元である米国医学図書館(NLM)仕様のみであり、ユーザー個別のURL登録はできません。PubMedのリンク先からでもパスワードを入力すれば利用できますので、医学図書館のホームページ（URL：<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/>）等で方法を確認してください。

図書館連絡先

附属図書館	参考調査掛	(075-753-2636)
医学図書館	閲覧掛	(075-753-4313)